



ようこそ金沢へ！

過去最多！ 975人が金沢で集結

ソウル国際大会が終わった4日後の6月5日、第5回日台ロータリー親善会議が、石川県金沢市で開催されました。国際大会の直後であるだけに、どれくらいの参加者が集まるのかといった心配をよそに、会場の石川県立音楽堂コンサートホールはいっぱいになりました。

第1回日台親善会議が2008年に東京で行われた後、ほぼ2年に1度の割合で、両国で交互に開催されています。ユニークな点は、毎回、開催地が異なること。つまりこの会議に毎回出席していれば、日本も台湾もいろいろな所へ行くことができるということになります。

今回、金沢での開催と聞いて、「北陸新幹線に乗れる」と思った方もいると思いますが、台湾の人にとって金沢は、また別の意味で興味深い場所だと言えます。それは、日本統治下の台湾で、農業水利事業に大きな貢献をしたことで知られる八田與一氏(1886～1942)の出身がここ金沢だからです。八田氏は台湾の教科書に載っているほど。また、前々日からの金沢百万石まつりの開催とも重なったため、参加者にとっては、一度の訪問で二度おいしい？ 思いができたのではないのでしょうか。前日に百万石行列を見学し、すっかり堪能したらしい台湾のロータリアンからは、「昨日から金沢に来てパレードを見なくちゃだめだよ」と言われました。

そんなお祭りムードが漂う中、会議が始まりました。今回のホスト地区・第2610地区の柳生好春ガバナーからは、国際大会が終わった直後にもかかわらず、これまでの日台親善会議の中で一番多い975人(うち台湾からの参加者283人)だったといううれしい報告があり、両国間には政治的に難しい問題もあるが、だからこそ、自分たちロータリアンの草の根の交流に意義があるので

第5回日台ロータリー親善会議

はないかというあいさつがありました。

地元、石川県知事の谷本正憲氏、金沢市長の山野之義氏からは、観光を中心に台湾とのつながりが強くなっていることが述べられました。現在、金沢を訪れる台湾からの観光客は年間29万人以上、外国人の半数を占めているそうです。

台日国際扶輪親善会副理事長の許國文氏は祝辞の中で、今回の親善会議での第2610地区のロータリアンのホスピタリティに感謝の言葉を述べ、「両国のロータリアンが協同で国際奉仕を行い、両国間の友好の絆は一年ごとに固まっています。これはうれしいことです」と続けました。そして、玉屋亮平パストガバナー(第2790地区)が八田與一記念館内に桜を植樹するため毎年台湾を訪れ、100万円ずつ寄付を行っていることを紹介しました。

国際ロータリー(RI)理事の杉谷卓紀氏は、「被災した地元、熊本・大分が復興に向かって動き出している」と報告、現在も続く台湾からの支援に対して感謝の意を表しました。今回の熊本・大分の震災に限らず、震災の多い両国は互いに支援し合っています。台湾南部大地震の時も日本から多くの義援金を送られたという報告がありましたが、現在、東日本大震災で被災した遺児の大学生、専門学校生に奨学金を給付している「ロータリー希望の風奨学金」の原資の一部に、台日国際扶輪親善会からガバナー会を通して寄せられた義援金が充てられていることも忘れてはならないと思いました。

林修銘RI理事からは、これまで日本語を中心に進められてきた日台親善会議ですが、日本語を理解する台湾の人が減っているため、イヤホンによる同時通訳で参加者の理解度を深めてはどうかという提案がありました。

記念講演は、田中作次氏と黄其光氏という二人の元R

I会長の講演という豪華な顔ぶれ。田中氏は、「世界のロータリー」という演題で「RI会長になってよく聞かれる質問」を回答する形で、RIの本部があるエバンストンでの約2年半の経験を話しました。

黄氏の演題は「ロータリーの会員増強」。世界中のロータリークラブに「ロータリーデー」旋風を巻き起こし、ロータリーを知ってもらうことに力を入れた黄氏ですが、新会員を勧誘するには、「声をかけてみる」ことが唯一の答えだということを、RI会長の任期中の経験を踏まえて話しました。なお、今会議で発表された台湾のロータリーの現況報告によると、この2年間で、45クラブが新しくでき、4,049人を増強し、2017-18年度には現在の7地区から12地区に増える予定があるという報告がありました。

まさに満員御礼 懇親晚餐会

広い宴会場には、所狭しと並べられたテーブル。それでも席が足りず、ホスト地区の参加者は別会場に。晚餐会は金沢芸妓連によるお囃子に始まり、乾杯は、本親善会議の発足に大きな貢献をした日台親善会議名誉総裁の前川昭一氏。会議の成功に杯をあげました。

台湾式の乾杯は、文字通り杯を飲み干すこと、と聞いたことがあります。郷に入っては郷に従え、今回は開催地が金沢だけに、穏やかにそれぞれのテーブルで乾杯が行われ、和やかに談笑し合う姿が多く見られました。

台湾のロータリー 日本のロータリー

	台湾	日本
会員数	33,480	89,053
クラブ数	714	2,269
地区数	7	34
ロータリークラブ創立案	1948年	1920年
(日台間の) 友好クラブ	75	
(日台間の) 姉妹クラブ	368	
米山奨学生(15-16年度)	4 (**)	35

参考：第5回日台ロータリー親善会議プログラム
*会員数、クラブ数は2016年1月末現在
**台湾米山奨学会が支援する日本人

あるテーブルで日本のロータリアンが、台湾のロータリアンに英単語で呼びかけているのが耳に入ってきました。聞いてみれば、台湾にはロータリーネームがあるとのこと。ゲイリー、ダニエル、ミラーといった英語の名前もあるのですが、デンタル、コンピューター、ケミカルといった職業に関係のある英語名の人も多いのだそうです。自分で好きな名前を名乗ることができるらしいのですが、職業を大切にするロータリーらしい習慣だと思いました。

閉会は、ホスト地区の中川可能作パストガバナー。台湾と日本、そしてアジアでのロータリーの将来に思いを馳せる熱意のこもったあいさつで幕を閉じました。

次回は2018年3月31日、台湾西南部、バナナの名産地でも知られる高雄で開催されます。

*役職は当時のものです。 『友』副編集長 野崎 恭子



日台ロータリー親善会議総裁
板橋敏雄氏



台日国際扶輪親善会副理事長
林士珍氏

